

我が国の医療政策と国立精神・神経センター（NCNP）を取り巻く環境と課題（考え方）

<p style="text-align: center;">環 境</p> <p style="text-align: center;">NCNP</p>	<p style="text-align: center;">機 会</p> <p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション促進の機運</li> <li>・脳の科学の進歩及び神経・筋疾患に係る遺伝子レベルの解明の進歩</li> <li>・医療機能分化の促進及び地域生活支援体制の強化</li> <li>・医療観察法の円滑な運営</li> <li>・自殺予防対策の促進</li> </ul> <p><u>NCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非公務員型独法化による産学との連携の促進</li> <li>・武蔵病院の新棟建築（H23 開棟予定）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">脅 威</p> <p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の更なる進展</li> <li>・医師確保難など地域医療の脆弱化</li> <li>・NCの医療・研究の成果の政策への取り込みが不十分</li> </ul> <p><u>NCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政基盤脆弱化のおそれ</li> <li>・絞り込めていない総花的医療・研究</li> <li>・優秀な人材の確保難のおそれ</li> <li>・大学等との競合の熾烈化</li> <li>・地域医療との連携の弱さ</li> </ul>
	<p>国立精神・神経センターの主な課題</p>	
<p style="text-align: center;">強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神、神経、筋、発達障害の患者集積性が高い</li> <li>・精神、神経、筋、発達障害の専門家集団</li> </ul> <p>研 究：組織力・継続性 基礎から臨床応用まで一貫した臨床研究体制</p> <p>医 療：豊富な臨床実績</p> <p>人材育成：精神、神経、筋、発達障害に係る診療・研究の厚い指導体制</p> <p>情報発信：精神、神経、筋、発達障害に係る総合的な情報提供</p>	<p>○先駆的医療等の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神、神経、筋、発達障害の分野の研究において、産学、国立病院機構等との連携（医療クラスター）を形成</li> <li>・精神、神経、筋、発達障害の分野に係るトランスレーショナルリサーチ（TR）を推進</li> <li>・研究開発を推進するためのNC内での資源配分の適正化と研究基盤（データバンク等）の整備</li> </ul> <p>○医療の均てん化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る疾患別ネットワークを構築する等、医療の均てん化の道筋を確立</li> <li>・各分野の均てん化の進捗状況を評価し、地域医療体制の構築に助言</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神、神経、筋、発達障害の分野に専門分化したことによる低い総合力</li> <li>・研究成果と臨床応用との連携が弱い</li> </ul> <p>研 究：・医学外の集学的研究体制が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携が未成熟</li> </ul> <p>医 療：・都道府県等との連携が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟</li> <li>・データの蓄積・分析が未成熟</li> </ul> <p>人材育成：医療と研究のキャリアパスが未成熟</p> <p>情報発信：社会的情報発信が弱い</p>	<p>○人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る専門医及び研究者を育成するキャリアパスの構築</li> <li>・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係るモデル医療均てん化のための指導医等専門家の育成</li> <li>・政策の円滑な実施のための自治体職員に対する研修の受入</li> </ul> <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神、神経、筋、発達障害の疾患の治療法等の普及啓発</li> <li>・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る診断・治療のガイドラインを提供</li> <li>・自殺対策等に係る関係者及び国民への情報提供</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療観察法の運用に係る中心的機関（診療・研究等）</li> <li>・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る政策研究等による提言</li> <li>・自殺対策等に関する研究等による提言</li> </ul>	

## 国立国際医療センターが担う主な役割（現状）

### （研究）

- 疾病のメカニズムの解明
  - 1) 生活習慣病：テラーメイド医療の推進に向けた遺伝-環境要因の同定と相互作用の解明
  - 2) 感染症・免疫：分子レベルでの感染成立機構および免疫応答システムの解明と疾病重症化に関する病態鍵分子の探索
- 予防法開発
  - 1) 生活習慣病：予防法のエビデンス確立のための多施設型大規模コホート研究の実施
  - 2) 感染症・免疫：感染経路の同定と他研究機関と連携した新規予防法の開発
- 診断・治療技術の開発
  - 1) 生活習慣病：個々の特性に基づいたバイオマーカーの探索、ES細胞等を利用した臓器組織再生技術など先駆的治療法の開発
  - 2) 感染症・免疫：全身的複合病態における感染症の診断法・治療法の開発、薬剤耐性化（多剤耐性化）を防止するための基盤研究および臨床研究の実施
- 医薬品及び医療機器のTR・治験
 

（・希少性疾患又は市場規模の小さい疾患分野、高い開発リスクを有する新規市場分野を中心に対応）  
産学官連携により新規に開発された医薬品及び医療機器のTR・治験を推進するための臨床研究プラットフォームの形成
- 医療の均てん化手法（モデル医療・標準的医療）の開発
  - 1) 生活習慣病：複合した臓器合併症の臨床的評価を系統的かつ効率的に行い、さらに先駆的治療を 実践するためのモデル医療の開発
  - 2) 感染症・免疫：新感染症のアウトブレイク時の拡散防止および急性期患者に対するモデル医療の開発  
院内感染や多剤耐性化の防止に向けた標準的医療の開発
- 研究基盤の整備
  - ・臨床試験支援（治験統括・支援等）
  - ・データバンク（臨床データ、検体等）

**EBM** を理解した生物統計専門家および臨床研究医の育成、臨床試験を支援する治験・臨床研究コーディネーターなどのコメディカルスタッフの育成、支援する組織体制の整備、病院コホート・プロジェクトを基盤とした臨床データ、検体の収集・保管、疾病データベースの整備・拡充

### （医療の均てん化）

- モデル医療・標準的医療の普及
  - 1) 全国最大・最先端のエイズ医療施設としての最新治療の実践と全国均てん
    - 最新エイズ医療の実践と地域拠点病院への支援
  - 2) 新型インフルエンザなどの国際的な新興・再興感染症の征圧を目的とした危機管理医療
    - 新たな診断・治療法の均てんなど、特定感染症病床による全国的モデルなど

### （人材育成）

- 高度専門家（臨床家、研究者）の育成
  - 1) 28の診療科を有する総合医療機関として各診療分野（エイズ、新興再興感染症）の専門医養成
  - 2) HIV/AIDS患者の診療にあたる外部医療従事者を対象とした研修コースの実施
  - 3) 海外拠点病院への医師の短期交換留学（熱帯感染症研修）

### （情報発信）

- 国内外での最新知見（研究成果等）を収集・評価し、最良の情報を提供
  - 1) 最新の HIV/AIDS 研究、診療情報の発信、首都圏感染症指定医療機関連絡会、新型インフルエンザ等時宜を得たテーマでの講演会実施
  - 2) （一般国民向け）HIV/AIDS 予防対策、感染症対策、メタボリックシンドロームに関する情報をホームページに掲載。生活習慣病教室の開催

### （国際協力）

- 1) ユニバーサルな保健医療サービスの実践（二国間／多国間協力の実施、専門家の派遣）
  - 専門家派遣による途上国の保健医療システム構築、ベトナム等海外拠点への医療技術支援
  - 保健医療協力プロジェクト形成のための調査団、評価事業への参加、緊急援助隊の派遣
- 2) 開発途上国の医療従事者及び国際医療協力に従事する人材の育成（国際医療センターにおける研修）
- 3) WHO コラボレーティングセンターとしてポリオ根絶等、国際戦略に協力
  - 現地におけるWHO地域事務局との共同技術支援

わが国の医療政策と国立国際医療センター(IMCJ)を取り巻く環境と課題（考え方）

<p style="text-align: center;">環 境</p> <p style="text-align: center;">I M C J</p>	機 会	脅 威
	<p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション促進の機運</li> <li>・医療機能の分化の促進</li> </ul> <p><u>NCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非公務員型独法化による産学との連携の促進</li> </ul>	<p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の更なる進展</li> <li>・医師確保難など地域医療の脆弱化</li> <li>・NCの医療・研究の成果の政策への取り込みが不十分</li> </ul> <p><u>NCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政基盤脆弱化のおそれ</li> <li>・絞り込めていない総花的医療・研究</li> <li>・優秀な人材の確保難のおそれ</li> <li>・大学等との競合の熾烈化</li> <li>・地域医療との連携の弱さ</li> </ul>
<p style="text-align: center;">強 み</p>	<p>国立国際医療センターの主な課題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定分野の患者集積性が高い</li> <li>・特定分野の専門家集団</li> </ul> <p>研 究：・組織力・継続性</p> <p>医 療：・豊富な臨床実績</p> <p>人材育成：・特定分野について診療・研究の厚い指導体制</p> <p>情報発信：・特定分野についての総合的な情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>先駆的医療等の研究</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究プラットフォームと医療情報センターの構築による国病機構・大学・企業等との連携による先駆的治療法の開発</li> <li>・臨床研究プラットフォームと医療情報センターの構築によるTRの推進</li> <li>・IMCJ全体としてのバイオリソース機能を備えた情報センターを構築</li> </ul> </li> <li>○ <u>医療の均てん化</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病毎(*)の診療ネットワークの構築及び標準的治療法の確立</li> <li>(*) AIDS・肝炎を中心とした感染症、糖尿病を中心とした代謝症候群、免疫難病を中心とした免疫・アレルギー・リウマチ性疾患</li> <li>・評価手法の開発と自治体スタッフの研修、地域医療体制のあり方の検証・評価と構築</li> </ul> </li> </ul>	
<p style="text-align: center;">弱 み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>人材育成</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全診療科を有するIMCJの診療体制を生かした高度専門総合医療のできるスタッフの育成</li> <li>・エイズ、肝炎、代謝症候群などの診療分野において地域拠点病院が各地域の診療ネットワークの中で高度なモデル医療を実践できるようにIMCJにおいて指導医講習会などを実施し、専門家を育成</li> <li>・臨床研究プラットフォームを活用した臨床研究医師・臨床医学研究者の育成</li> <li>・日本人対象：国際医療協力に従事する人材育成のモデルプログラムの作成及び実施、ネットワーク機関における研修</li> <li>・外国人対象：高い評価を受ける保健医療人材の創出を目指したカウンターパート研修のカリキュラム、研修後評価、研修指導者育成</li> </ul> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定分野に専門分化したことによる低い総合力</li> <li>・研究成果と臨床応用との連携が弱い</li> </ul> <p>研 究：・医学外の集学的研究体制が弱い</p> <p>・企業との連携が未成熟</p> <p>医 療：・都道府県等との連携が弱い</p> <p>・医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟</p> <p>・データの蓄積・分析が不十分</p> <p>人材育成：・医療と研究のキャリアパスが未成熟</p> <p>情報発信：・社会的情報発信が弱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>情報発信</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者本位 予防・健診・最新治療法等について実際に国民が知りたいと思う情報の提供</li> <li>・医療機関本位 地域における診療ネットワークの中核医療機関としての機能充実が図られるような最新の研究成果、治療法等の提供</li> <li>・国際保健に関する情報の収集、国際医療協力活動のデータベース化の実施による情報発信</li> </ul> </li> <li>○ <u>国際協力</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来からの国際的課題のみならずメタボリックシンドローム等新たな課題、緊急医療においても質の高い国際保健協力の実施</li> <li>・我が国の国際医療協力の実質的中心として戦略・政策提言</li> <li>・病院機能との連携により海外勤務邦人への継続的医療サービスの提供</li> <li>・国際保健関係機関とのネットワークを形成し、ハブ機能を担う。</li> <li>・二国間協力等の現場での経験とグローバル政策動向の両面を反映した国際保健研究の実施</li> </ul> </li> <li>○ <u>その他</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の政策医療をサポートするための企画・調査機能の充実、政策提言のためのオフィシャルなシステムの構築</li> </ul> </li> </ul>	

## 国立成育医療センターが担う主な役割（現状）

<p>（ 研 究 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生殖・初期発生、胎児発育、妊娠母体生理の研究</li> <li>○ 安全で効果的な不妊・不育・周産期治療の開発</li> <li>○ 小児超希少疾患および難治性疾患（先天異常・成長障害・小児がんなど）の病態解明と予防・診断・治療法の開発</li> <li>○ 成育医療に係る胎児診断・治療、移植医療の開発</li> <li>○ こころの疾患（摂食障害・虐待など）に対する研究および治療法の開発</li> <li>○ 臨床試験・治験の実施・推進による適切な予防・診断・治療法の確立</li> <li>○ 成育バイオリソース構築</li> </ul>
<p>（医療の均てん化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小児難治性疾患等や実施困難な領域等の臨床研究推進</li> <li>○ 慢性疾患の子どもと家族への生涯を通しての心身ケアの確立</li> <li>○ 不妊・不育／産科医療の標準化</li> <li>○ 周産期および小児救急ネットワーク構築による救急医療強化</li> <li>○ 成育医療における遠隔医療（eメディシン）の実践</li> </ul>
<p>（人 材 育 成）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域医療を支える総合的診療能力の優れた小児科医、産科医、子どもの心の診療医の研修・育成</li> <li>○ 成育医療を担う小児科医、小児関連外科医、麻酔科医などの専門医・指導医の研修・育成</li> <li>○ 専門性の高いコメディカルスタッフの研修・育成</li> <li>○ 成育臨床研究を立案・実施・支援できる医療スタッフ研修・育成</li> <li>○ 病院－研究所人事交流による臨床研究活性化</li> <li>○ 若年者教育（小学校、中学校、高等学校、大学）へのフィールド提供</li> </ul>
<p>（情 報 発 信）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 妊娠と薬事業等による安心・安全なくすり情報発信</li> <li>○ 新生児・周産期、小児慢性特定疾患等のデータベース構築</li> <li>○ 成育医療に係る医療機関等における診療情報の把握と分析</li> <li>○ 成育医療に係る各種相談事業などの展開</li> </ul>
<p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生殖補助医療で産まれた児の追跡など各種コホート研究推進</li> <li>○ 成育医療の適正化のための医療経済学的研究の実施</li> </ul>

わが国の医療政策と国立成育医療センター(NCCHD)を取り巻く環境と課題(考え方)

<p style="text-align: center;">環 境</p> <p style="text-align: center;">NCCHD</p>	<p style="text-align: center;">機 会</p> <p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション促進の機運</li> <li>・医療機能の分化の促進</li> <li>・小児科・産科医療の集約化、重点化</li> <li>・就労環境の整備</li> <li>・安心・安全な医療の推進</li> <li>・国民のニーズにあった成育医療の推進</li> </ul> <p><u>NCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非公務員型独法化による産学との連携の促進</li> </ul>	<p style="text-align: center;">脅 威</p> <p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の更なる進展</li> <li>・医師確保難など地域医療の脆弱化</li> <li>・NCの医療・研究の成果の政策への取り込みが不十分</li> </ul> <p><u>NCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政基盤脆弱化のおそれ</li> <li>・絞り込めていない総花的医療・研究</li> <li>・優秀な人材の確保難のおそれ</li> <li>・大学等との競合の熾烈化</li> <li>・地域医療との連携の弱さ</li> </ul>
<p style="text-align: center;">強 み</p>	<p style="text-align: center;">国立成育医療センターの主な課題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定分野の患者集積性が高い</li> <li>・特定分野の専門家集団</li> <li>・総合診療部・専門診療部との連携による心身を統合した総合力</li> <li>・ITインフラ実績および人材確保</li> <li>・IT企業との連携</li> </ul> <p>研 究 : 組織力・継続性</p> <p>医 療 : 豊富な臨床実績</p> <p>人材育成 : 特定分野及び総合診療について診療・研究の厚い指導體制</p> <p>情報発信 : 特定分野及び総合診療についての総合的な情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>先駆的医療等の研究</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生殖・初期発生、胎児発育、妊娠母体生理の研究</li> <li>・安全で効果的な不妊・不育・周産期治療の開発</li> <li>・小児超希少疾患および難治性疾患(先天異常・成長障害・発達障害・小児がんなど)の病態解明と予防・診断・治療法の開発</li> <li>・成育医療に係る胎児医療、移植医療、再生医療の開発</li> <li>・臨床試験・治験の実施・推進による適切な予防・診断・治療法の確立</li> <li>・成育バイオリソース構築</li> </ul> </li> <li>○ <u>医療の均てん化</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児難治性疾患等や実施困難な領域等の臨床研究推進</li> <li>・周産期・小児救急ネットワーク構築による救急医療強化およびモデル医療の推進</li> <li>・チーム医療および中央診療部門を強化したモデル的成育医療の推進</li> <li>・不妊・不育／産科医療の標準化</li> <li>・こころの疾患(摂食障害、虐待など)に対する診療の推進</li> <li>・小児・周産期疾患に対する医薬品の開発推進</li> <li>・慢性疾患の子どもと家族への生涯を通しての心身ケアの確立</li> <li>・成育医療における遠隔医療(eメディシン)の実践</li> </ul> </li> <li>○ <u>人材育成</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中核・拠点施設において地域医療を支える総合的診療能力の優れた小児科医、産科医、子どものこころの診療医の研修・育成</li> <li>・成育医療を担う小児科医、小児関連外科医、麻酔科医などの専門医・指導医の研修・育成</li> <li>・専門性の高いコメディカルスタッフの研修・育成</li> <li>・成育臨床研究を立案・実施・支援できる医療スタッフ研修・育成</li> <li>・病院－研究所人事交流による臨床研究活性化</li> <li>・若年者教育(小学校、中学校、高等学校、大学)へのフィールド提供</li> </ul> </li> <li>○ <u>情報発信</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児・周産期、小児慢性特定疾患、不妊等のデータベース構築</li> <li>・先端成育医療・研究の情報提供と解説</li> <li>・成育医療に係る医療機関等における診療情報の把握と分析</li> <li>・妊娠と薬事業等による安心・安全なくすり情報発信</li> <li>・発達障害を含むこころの診療に関する情報発信</li> <li>・成育医療に係る各種相談事業などの展開</li> </ul> </li> <li>○ <u>その他</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生殖補助医療で産まれた児の追跡など各種コホート研究推進</li> <li>・成育医療の適正化のための医療経済学的研究の実施</li> <li>・成育医療における政策提言</li> </ul> </li> </ul>	
<p style="text-align: center;">弱 み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定分野に専門分化したことによる医療ニーズの把握が困難</li> <li>・研究成果と臨床応用との連携が弱い</li> <li>・寄付・投資の受け皿がない</li> </ul> <p>研 究 : 医学外の集学的研究体制が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携が未成熟</li> </ul> <p>医 療 : 都道府県等との連携が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟</li> <li>・定員に制約があり、医療ニーズに対応した人員配置が不十分</li> </ul> <p>人材育成 : 医療と研究のキャリアパスが未成熟</p> <p>情報発信 : 社会的情報発信が弱い</p>		

## 国立長寿医療センターが担う主な役割(現状)

### (先駆的医療の研究)

- アルツハイマー病の予防・早期診断・新規治療法・治療薬等の開発
- 認知症の早期診断と標準的な治療法の開発
  - ①SPECT、PETの画像診断
  - ②非薬物療法
- 肺炎、排尿障害等の高齢者に多い病態に対する診断・治療法の開発
- 骨粗鬆症・尿失禁の早期診断・治療法の開発
  - ①新規診断法の開発
  - ②合併症(骨折)の予防・治療(骨セメント、ヒッププロテクター)方法の開発
- 在宅医療の推進(標準医療の推進)
- 医療工学的アプローチによる医療・介護に関する質の向上

### (医療の均てん化)

- 認知症の早期診断と標準的な治療法の普及
  - ①治験の推進
- 骨粗鬆症の客観的診断法と標準的な治療法等の普及
  - ①治験の推進
- 肺炎、排尿障害等の高齢者に多い病態に対する診断・治療法の普及
- 高齢者の心身の特性に配慮した全人的・包括的医療の実現
- 高齢者の急性期医療モデルの確立
  - ①平均在院日数の短縮 約31日(H14)→約19日(H18)
- 在宅医療の推進(標準医療の推進)
  - 在宅医療推進会議の設置

### (人材育成)

- 長寿医療専門医師の養成
  - レジデント等(年間10名、延べ200名)に対する研修
- 認知症の標準医療(診断・治療・地域連携)に関する普及啓発
  - 「認知症サポート医養成研修」の実施
- 他の病院等から長寿医療専門家の研修受入
  - 「長寿医療研修」の実施

### (情報発信)

長寿医療に関する情報発信及びデータベースの構築

- 認知症の標準医療に関する普及啓発

### (その他)



## わが国の医療政策とNCを取り巻く環境と課題（案）

	機 会	脅 威
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">環 境</div> <div style="text-align: center;">N C</div> </div>	<p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション促進の機運</li> <li>・医療機能の分化の促進</li> </ul> <p><u>NCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非公務員型独法化による産学との連携の促進</li> </ul>	<p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の更なる進展</li> <li>・医師確保難など地域医療の脆弱化</li> <li>・NCの医療・研究の成果の政策への取り込みが不十分</li> </ul> <p><u>NCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政基盤脆弱化のおそれ</li> <li>・絞り込めていない総花的医療・研究</li> <li>・優秀な人材の確保難のおそれ</li> <li>・大学等との競合の熾烈化</li> <li>・地域医療との連携の弱さ</li> </ul>
強 み	N C の 主 な 課 題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定分野の患者集積性が高い</li> <li>・特定分野の専門家集団</li> </ul> <p>研 究：組織力・継続性</p> <p>医 療：豊富な臨床実績</p> <p>人材育成：特定分野について診療・研究の厚い指導体制</p> <p>情報発信：特定分野についての総合的な情報提供</p>	<p>基本的方向性</p> <p><u>政策医療の牽引車</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究所と病院との相互連携による臨床研究機能の強化</li> <li>・医療提供の「実践者」から「調整・支援・指導者」へ重点を移す</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>先駆的医療等の研究</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NCが目前で担う役割（分野）を明確化し、産学、国病機構等との連携（医療クラスター）を形成</li> <li>基礎研究成果と臨床応用との連携を図る観点から、TR（トランスレーショナルリサーチ）を推進</li> <li>・ また、研究開発を推進するためのNC内での資源配分の適正化と研究基盤（データバンク等）の整備</li> <li>・ 在宅医療等のモデル医療などの手法の開発</li> </ul> </li> <li>○ <u>医療の均てん化</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾患別ネットワークを構築する等、医療の均てん化の道筋を確立</li> <li>・ また、均てん化の進捗状況を評価。地域医療体制構築に助言</li> </ul> </li> <li>○ <u>人材育成</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NCに有能な医療人、研究者を惹き付け、育成するキャリアパスの構築</li> <li>・ また、全国へのモデル医療の均てん化のための高度専門家や指導医等の育成</li> </ul> </li> <li>○ <u>情報発信</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的な情報を含め、患者本位、地域の医療機関本位の情報を発信</li> </ul> </li> <li>○ <u>政策提言</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療・研究の成果を踏まえ、医療政策への政策提言機能の発揮</li> </ul> </li> </ul>	
弱 み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定分野に専門分化したことによる低い総合力</li> <li>・研究成果と臨床応用との連携が弱い</li> </ul> <p>研 究：・医学外の集学的研究体制が弱い</p> <p>・企業との連携が未成熟</p> <p>医 療：・都道府県等との連携が弱い</p> <p>・医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟</p> <p>・データの蓄積・分析が不十分</p> <p>人材育成：医療と研究のキャリアパスが未成熟</p> <p>情報発信：社会的情報発信が弱い</p>		



## 国立高度専門医療センターと大学医学部の主な強み・課題

	国立高度専門医療センター	大 学 医 学 部
性 格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定分野に係る高い患者集積性と<u>専門家集団</u></li> <li>・ 国の医療政策との連携が求められる</li> <li>・ 国の医療政策上で重要な特定分野に関する<u>継続的な取組</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学術上で重要な多岐にわたる分野に関する機動的な取組</li> <li>・ 病院は各診療科に分かれるため特定疾患数は少ない</li> </ul>
研 究	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国の医療政策上で重要な特定分野に関する<u>組織的・継続的な取組</u></li> <li>▲ 医学外を含めた集学的研究体制の構築がしづらい</li> <li>▲ 企業との連携が未成熟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究の進展に応じた<u>自由度</u>の高い研究</li> <li>▲ 医局や組織の間に存在する壁</li> <li>▲ 教授交代の際の研究の<u>継続性確保</u>が難しい</li> </ul>
臨床研究と医療技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手間のかかる診療にも熱心</li> <li>○ 基礎研究より<u>臨床研究(治療技術開発を含む)</u>に重点</li> <li>○ 難治症例の豊富な診療実績を踏まえた治療技術の開発</li> <li>○ 市場性の低い希少疾患への取組</li> <li>▲ 日々の診療と医療技術の向上が優先される傾向、治療データの蓄積・分析が課題</li> <li>▲ トランスレーショナルリサーチの推進やデータバンク等の研究基盤整備が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>他学部</u>の連携協力を得やすい</li> <li>○ <u>基礎研究</u>の蓄積</li> <li>▲ 基礎研究が中心</li> </ul>
医療技術の均てん	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 厚生労働行政と緊密連携し、時代の要請に応え、医療ネットワークを構築</li> <li>▲ 都道府県等の地域医療との連携体制の強化が課題</li> <li>▲ 医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医局人事を通じた医療機関との連携</li> </ul>
人 材 育 成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特定分野についての診療技術、研究手法の総合的・専門的習得に適當</li> <li>○ 専門医の育成のみならず、<u>指導医の育成</u>に重点</li> <li>○ 専門性の高い<u>コメディカル</u>の育成基盤</li> <li>▲ 診療と研究のキャリアパスの構築が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学位付与機能を背景に<u>学位取得レベルの研究能力育成</u>に適當</li> <li>○ 医育機関として初期研修から後期臨床研修(レジデント)に重点を移行</li> </ul>
情 報 発 信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特定分野についての総合的な情報提供</li> <li>▲ 社会学的情報を含め、患者本位・地域の医療機関本位の情報発信に課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多岐にわたる情報発信</li> </ul>

○－強み      ▲－課題

## N C が具体的に担う主な分野（案）

（大学・民間部門が参入し難い又はN Cの強みを発揮できる分野）

（ 研 究 ）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 疾病のメカニズムの解明</li> <li>○ 予防法開発</li> <li>○ 診断・治療技術の開発</li> <li>○ 医薬品及び医療機器のT R・治験             <ul style="list-style-type: none"> <li>・希少性疾患又は市場規模の小さい疾患分野、高い開発リスクを有する新規市場分野を中心に対応</li> </ul> </li> <li>○ 医療の均てん化手法（モデル医療・標準的医療）の開発</li> <li>○ 研究基盤の整備             <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床試験支援（治験統括・支援等）</li> <li>・データバンク（臨床データ、検体等）</li> </ul> </li> </ul>
（医療の均てん化）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ モデル医療・標準的医療の普及</li> <li>○ 医療の均てん化の評価手法の確立及びその評価の実施</li> </ul>
（人 材 育 成）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高度専門家（臨床家、研究者）の育成</li> <li>○ 新たな専門分野の人材の育成と確保</li> </ul>
（情 報 発 信）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国内外での最新の知見（研究成果等）を収集・評価した上で情報を提供</li> </ul>
（そ の 他）